

2014年度予算要求の回答書(その8)
今回は、3. 子どもと教育の危機を打開するために①、4. いつまでも住み続けられるまちづくりを①～③です。

3. 子どもと教育の危機を打開するために

①都市計画道路の建設に伴う三田小学校の再整備については、保護者・児童・住民に対して、経過および今後の計画を明らかにし、住民の不安を払拭すること。また、工事期間中は、通学路の安全を確保し、学習環境に十分配慮すること。

都市計画道路の建設に伴う三田小学校の再整備につきましては、平成25年7月と12月に保護者説明会を行い、グラウンドや学校施設の再配置計画について御説明させていただきました。

今後につきましても、都市計画道路や三田小学校西側の市道整備を含めた、学校に影響のある工事計画について、年度ごとに保護者の皆様へ御説明しつつ、安全な学校整備に努めてまいります。

また、周辺住民の皆様に対しましては、平成25年7月に説明会を行っておりますが、今後も適切な時期に説明会を行う予定です。

なお、工事期間中は、通学路を含めた児童への安全確保を行うとともに、周辺環境へも十分配慮し施工してまいります。(学校施設課、道路整備課)

4. いつまでも住み続けられるまちづくりを

①各商店街および個人商店の活性化をはかるため、事業者と話し合い、実効性のある施策を講じること。

本市では、商店会が企画するイベントやセールに係る経費の一部を補助する販売促進事業や、新聞折込みチラシなどPR活動を支援する「あつぎ商店会PR事業」など、商店会の活性化に取り組んでおります。

また、個人商店等の魅力を向上させ、市内店舗での消費拡大を図るため、「にぎわい元気繁盛店相談支援事業」を併せて展開しているところです。

今後におきましても、商店会連合会や各商店会と連携を深め、引き続き効果的な施策を推進し、各商店会及び個人商店の活性化に取り組んでまいります。

(商業にぎわい課)

②市民交流プラザの使用料については、現行施設の設置目的に合わせた減免制度を取り入れること。

市民交流プラザは、子どもから高齢者まで、あらゆる世代が交流できる施設として整備しており、減免につきましては、市が主催、共催する行事等のために使用する場合やその他市長が特に必要と認めた場合のみとさせていただきます。(あつぎ元気館整備担当)

③市内各地の空き店舗を、公共の施設や民間施設として活用できるよう研究すること。固定資産税を減免し、利用したい市民が借りやすくすること。

公共施設の設置等につきましては、昨年4月に策定した、「公共施設の最適化基本方針」における指針として、統一的な考えに基づく施設の最適化を基本的な考え方としております。

公共施設の最適化に当たっては、個々の施設ではなく、全ての公共施設を対象に「全体最適化」の視点から実現することが重要であると認識しており、本市としての統一的な方針に基づき一体的な取組を進めていく必要があります。

従いまして、公共施設の整備等を実施する際には、所管部署のほか、企画、総務、財務部門を含めた庁内の横断的な組織によって、全市的な視点から検討することとしております。

また、民間施設としての活用につきましては、中心市街地のにぎわいづくりを目的として、「空き店舗出店支援事業」を実施し、新たに小売業、飲食業又はサービス業を出店される方々に対し、家賃や改装費用の補助を行い支援しております。

なお、固定資産税の減免につきましては、店舗所有者(貸主)に対する措置であり、結果として賃借料を安くするための支援と認識しておりますが、同様の支援策として、本支援事業の中で借主に対する家賃補助を実施しております。

今後も引き続き、多くの方々が本市に足を運び、活気に満ちた魅力あるまちづくりを推進するとともに、商業施設が出店しやすい環境づくりを図るため、制度の見直しについて検討してまいります。

(企画政策課、商業にぎわい課)

児童遺棄・孤立死事件について

5月30日に発見された、市内下荻野で男児の遺体が発見された事件について、党議員団の見解です。

今回の事件では、7年間遺体が放置されていたことについて、行政への批判が出されています。しかし、この問題の本質は、それ以前に児童が適切な保護を受けられずに死亡していたことにあると考えます。

家庭や地域の関係が希薄化している現代、この事件は決して他人ごとではありません。この世に生を受け、愛され育まれていくべき存在が、生きることさえかなわなかった状況を、私たち一人ひとりがしっかりと受け止めていくべきです。

一人ひとりが大切にされる社会をどう作っていくのか、私たちは考え、実践していかなければなりません。

日本共産党厚木市議員団

市長及び教育長のコメントです。

今回、市民一人である幼い子どもが命を落とし、7年もの長い間、気付いてあげられなかったことに大変心を痛めております。無念であり、心からご冥福をお祈り申し上げます。今回の事件で亡くなられた尊い命を無駄にしないためにも、警察や児童相談所などの関係機関と連携し、今回の事件を徹底的に検証するとともに、このようなことが二度と起こることのないよう危機意識、緊張感を持って、これまでの認識を改め、具体的な再発防止策について検討を進めているところでございます。今後、私たち行政の責務・役割の原点であります「市民の生命を守る」ため、全身全霊で取り組んでまいります。

厚木市長 小林 常良

この度、大切な幼い命が失われてしまったということに対して、亡くなられたお子様のご冥福を心からお祈り申し上げます。教育長として、常日頃から、子どもの命を守ることを第一に、教育環境の整備・充実に取り組んでまいりましたが、かけがえない命につながることを十分に意識したきめ細かな対応が、日々の仕事の中でも必要ではなかったのか等、様々な悔いが胸に去来しております。

お亡くなりになった尊い命を取り戻すことはできませんが、二度とこのようなことが起こらないよう、市役所の各部署間との連携はもちろんのこと、児童相談所、警察など関係機関との連携を一層強化するとともに、職員一人ひとりが、自らの仕事がかげがえない子どもの命につながっているということを改めて認識し、職員一丸となって、全力で取り組んでまいります。所存でございます。

厚木市教育委員会
教育長 平井 広